

# IUFRO 2024 に参加して 日本とケニアの育種事業の活動発表他

## 1. IUFRO 2024 の状況

IUFRO (International Union of Forest Research Organizations; 国際森林研究機関連合)では、5年に一度、世界大会を実施しています。今回はストックホルムで開催され、「Forests and Society Toward 2050 (2050年に向けた森林と社会)」という大テーマの下、「Forests for sustainable societies (持続的な社会のための森林)」、「Strengthening forest resilience and adaptation to stress (環境ストレスに対する森林のレジリエンスと適応性の強化)」、「Towards a responsible forest bioeconomy (責任ある森林バイオエコノミーに向けて)」、「Forest biodiversity and ecosystem services (森林の生物多様性と環境サービス)」、「Forests for the future (未来のための森林)」というサブテーマを掲げ、4000人以上の世界各国の研究者、国際機関関係者、事業者等が参加しました。

センターでは2012年よりJICA技術プロジェクトとして研究してきた成果を共同研究者である、ケニア森林研究所(KEFRI)の研究者(写真1)とともに、ケニアの郷土樹種であるメリア(*Melia volkensii*)育種研究の状況を発表しました。



写真1. KEFRI 研究者と JICA 専門家

なお、会場でのポスター発表のタイトルの多くは、ここ数十年の温暖化による世界、EU諸国等の植生の変化や、樹種別の炭素貯留に関するものが目につきました。

## 2. スウェーデンの森林

本会議の開催中にスウェーデンの森林を紹介するエクスカージョンに参加しました。

スウェーデンは、我が国とほぼ同じ国土の68%が森林であり、針葉樹が大半を占めています。視察した場所では、樹種はヨーロッパシラカバ、ノルウェースプルース、オウシュウアカマツが、人工林施業または天然下種更新施業により経営されています。収穫は、1990年以前は択伐方式でしたが、1990年以降は大面積皆伐を行っており、平坦な地形から機械化林業が進んでいます(写真2)。また、近年はスプルースビートルによる枯死が激増しているとのことです。



写真2. スウェーデンの森林経営の説明

## 3. IUFRO 2029開催地他

次回大会の開催地はケニアのナイロビと決まりました。次回の大会に向けて、当センターとKEFRIでは、引き続き研究を進め、共同研究成果を発表できるように準備を進めていきたいと考えております。

(海外協力課 山下 正輝)